

今井 顕 音楽講座

作曲者の意図を考え、音をよく感じ、
感性豊かな表現とは？

今井 顕 (いまいあきら) PROFILE

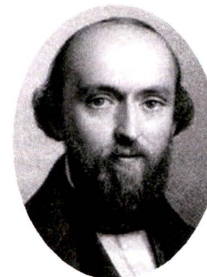


東京に生まれる。私立武蔵高校在籍中に渡欧、ウィーン国立音楽大学に16歳で入学する。

8年間の課程をわずか3年で修了し、早くも19歳の時に最優秀の成績で卒業。数々の国際コンクールで頭角をあらわし、コンサートピアニストとして国際的な活動を開始する。その後ウィーン国立音楽大学ピアノ専攻科における日本人初の指導者として抜擢され、数多くのピアニストを育成した。通算24年にもおよぶヨーロッパ滞在中の音楽分野における業績と尽力とに対しオーストリア政府より名誉教授の称号を授与され1995年に帰国、その後国立（くにたち）音楽大学大学院にて後輩の育成に携わった。

楽譜、書籍などの出版物も数多く、国際コンクールの審査員として招聘されるなど、日本の誇る国際派ピアニストとして内外で高い評価を受けている。宇都宮短期大学音楽科客員教授、国立音楽大学名誉教授、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会評議員。

ブルクミュラー『25の練習曲』の素顔



ご来場いただいた皆様へ

個人的な感想ですが、このところ「音楽がスポーツ化しているのでは？」と心配になることがあります。コンペティションなどの場で「競う」ことになる、そうならざるを得ないのかも知れません。でも、音楽本来の価値はそこにあるのではないと信じています。

新型コロナの影響で、できないことがたくさん増えてしまいました。本日は大きなホールで、素晴らしいピアノの「生の音」を楽しめる、久しぶりの機会となります。「音にやさしく包まれる」感覚を思い出し、お楽しみ下さい！ 時間は限られているものの、可能であれば25曲全曲の演奏をめざすつもりです。

美しく、魅力的な作品が集められており、「練習曲」とは名づけられていても「弾きたい」「弾けるようになりたい」という素直な気持ちの芽生えが期待できる、すてきな曲集です。しかし今まで一般的に使用されてきた一部の楽譜の編纂には、大きな問題がありました。端的には「作曲家の意志にそぐわない表情表現が指定されていた」ことが挙げられます。どのようなところが問題なのかをさぐっていきましょう。

何でもそうですが、「基本を身につける」というのは大切なことです。

「身につける」とは「それが自分の自然体になること」です。音楽の基本である「正しい抑揚」を無理なく、自然に覚えられるブルクミュラー《25の練習曲》——この曲集の魅力を再確認してみましょう。

今井 顕（本学客員教授）